

仕様書

技術戦略研究センター

1. 件名

AI産業のエコシステムに係る調査

2. 目的

現在、人工知能（以下、「AI」という。）に関する研究開発の速度は極めて速く、その適用・応用についても幅広い分野において急速に拡大している。日本においても導入が進められているものの米国などに比較すると進展は緩やかであり、現在の研究開発が社会実装に結びつくまでに、ニーズとシーズのマッチング環境の未整備、必要な人材の育成・確保などの課題が多く存在していると考えられる。そのため、AIの分野に関しては研究開発の成果が社会実装につながるためのそれらの課題を克服した理想的なエコシステムの構築が必要となっている。

本調査では、我が国におけるAIの研究開発から社会実装に至るまでのエコシステムについて調査及び分析等を行うことにより、AI分野における理想的なエコシステムについての基礎資料を得ることを目的とする。

3. 内容

AI分野に関する将来のプロジェクトや各種施策に資するための基礎資料とするため、以下の（1）～（5）の情報収集、調査、分析及び提言を行う。

- （1）ものづくり分野、健康・ウェルビーイング等におけるAIに関するエコシステムの現状の整理
 - ① 各分野におけるレイヤーとプレイヤーの整理
 - ② 上記に基づく各レイヤー間及びプレイヤー間の関連性とエコシステムの可視化
- （2）整理された現状のエコシステムに係る課題の抽出
 - ① 分野、レイヤーごとに課題を抽出
 - ② 分野独自の課題と分野間に共通する課題の整理
- （3）抽出された現状のエコシステムに係る課題を解決するために必要な技術課題の分析
- （4）国内のAI研究開発に係るコミュニティに関する調査

現在構築されているAI研究開発に係るコミュニティにおいて、研究開発の成果を社会実装に結びつける役割に向けた取り組みの現状調査、参画事業者や政策提言者等のステークホルダーとのエコシステムの形成に関する課題の整理
- （5）上記の各項目の調査内容を踏まえた以下の観点を含めた理想的なエコシステムについての検討・提言

- ① データの収集保有、提供・共有要領
- ② データ、アルゴリズム、計算機等の各資源活用の在り方
- ③ A I 開発の在り方と人材の育成・配置・活用
- ④ 計算資源の活用
- ⑤ 求められるプレイヤーの特性
- ⑥ 研究開発・事業・金融・政策等のマルチステークホルダーが参画し先端技術の社会実装に必要な要素を議論するコミュニティの在り方

以上の取組で得られた情報を取りまとめ、我が国における A I 分野に関する理想的なエコシステムの提言を行い、今後の関連するプロジェクトや様々な施策に資する基礎資料を得る。本調査においては、各種文献等の収集・分析、有識者へのヒアリング等により必要な情報収集、分析等を行う。また、NEDO は、可能な限り有識者ヒアリング等に参加する。

上記目的達成に向け、情報を補完する調査項目を追加することは妨げない。その他、NEDO から要請があった場合は、協議の上、可能な限り反映する。

以上の実施内容について、NEDO 担当者に対し対面又はメール等によりひと月に 2 回程度の進捗報告を行う。

4. 調査期間

N E D O が指定する日から 2022 年 7 月 31 日まで

5. 予算額

2,000 万円未満

6. 報告書

提出期限：2022 年 7 月 31 日

提出方法：N E D O プロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って、作成の上、提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

補記事項：作成物、成果物の著作権、所有権等は N E D O に帰属する。

仕様がない事項又は仕様について生じた疑義については、協議して解決するものとする。

7. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

以上